

特集

今秋、第10回津山国際総合音楽祭を開催！！

期 間：10月21日（土）～11月26日（日）

プレ期間：9月3日（日）～10月20日（金）



▲京都市交響楽団

第10回の節目となる音楽祭

3年に1度開催されている津山国際総合音楽祭は、今秋記念すべき第10回目を迎えます。

津山国際総合音楽祭は、1987年、瀬戸大橋架橋記念事業として、音楽都市構想を掲げる津山市が、その魅力を内外にアピールするために開催することになりました。「未来に架ける人の輪・音の輪」をテーマに、テーマ作曲家に「グスタフ・マーラー」を掲げました。当時、グスタフ・マーラーの名前はメジャーではなく、一部の音楽愛好家やマニア、専門家の間でのみ評価されていました。このことからマーラーを取り上げることへの批判も出て、度重なる議論がなされてきました。そうした中でも当音楽祭では、第9回に至るまで「グスタフ・マーラー」を貫き通してまいりました。

第10回の節目となる音楽祭も第1回から9回まで培ってきた大きな流れを受け継いでテーマ作曲家に「グスタフ・マーラー」を掲げた演奏会でお楽しみください。

また今回、市民参加型出演として、昨年結成されたばかりの「津山ジュニアオーケストラ」の演奏会が予定されています。これは津山市が掲げる「音楽によるまちづくり」の成果でもあります。

時代はめぐり、移り変わりゆく中、津山の音楽祭もそろそろ変わっていかねば、更なる未来への架け橋が見えてこないような気がします。いつの世も、いいものは引き継がれていくと同時に、新しい息吹も取り入れながら、若者の来場と参加が増える音楽祭にすることが、音楽によるまちづくりを継続していくために必要なことではないでしょうか。

各部門の主なプログラム

■クラシック部門

第34回津山第九演奏会、終演後のことです。「クラシック音楽に興味がなかったが、はじめて演奏会をきいて、第1楽章から4楽章まで内容はよくわからないなりに、その物語や情景の移り変わり、繊細さや迫力が伝わってきた。なぜかわからないが涙があふれた」こんな声を耳にしました。

どのジャンルでもそうですが、ホールで生演奏を聴くとその音空間に魅了されます。クラシックは、繊細な音がベースにあることで、逆に壮大な音が心を打ち感動するのでしょう。そんなクラシック部門の主な公演は、次のとおりです。

マーラー交響曲第4番演奏会

●10月21日（土）津山文化センター 大ホール
15:00開演（14:30開場）

下野竜也指揮による京都市交響楽団とソプラノ独唱に今久保宏美を迎えて、テーマ作曲家グスタフ・マーラーの「交響曲第4番」をお届けします。

料金：一般 5,000円
高校生以下 無料（要整理券）
※全席自由（一部招待制）

出演：指揮／下野竜也

（京都市交響楽団常任客演指揮者）

ソリスト／今久保宏美（ソプラノ）

管弦楽／京都市交響楽団

曲目：R. シュトラウス／死と変容

G. マーラー／交響曲第4番ト長調



▲下野達也
(c) Naoya Yamaguchi